

平成20年第7回日野町議会定例会（2日目）

平成20年12月15日 午前10時 開議

一般質問通告表

通告順	氏名	質問事項
1	中原 明	<p>※新学習指導要領に基づき学校教育のあり方について 平成19年6月、教育改革3法が成立し学習指導要領が改定され「ゆとり教育」路線を転換して、</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「生きる力」の理念を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」調和の重視○ 授業時間を増やし、特に理数教育の充実○ 小学校高学年で週一時間の外国語教育を必須と大きく転換されるが、本町の目指す教育方針は何か、示されたい。 <ul style="list-style-type: none">① 人間形成に必要な基礎的事項について、どのような内容を、成長をどの過程で、どんな方法で指導するのが効果的か② 小中一貫教育の目指すものは何か③ 小中一貫教育の方法と実施を具体的に示されたい④ 2011年度から小学校高学年で英語教育が実施されるが、取り組み予定はどうか⑤ ALTの招致について、H21年より導入予定と全協で表明されましたが、計画の進捗状況はどうか⑥ 学校教育改正で「学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努める」と規定されたが作成されましたか⑦ 評価事項は、評価方法はどのようなものか⑧ 評価により今後の改善策は<ul style="list-style-type: none">1. 学校運営について2. 教育課程について3. 課題教育について4. 特色ある教育について⑨ 学校評価について情報公開すべきではないか

2	佐々木周子	<p>※まちづくりについて</p> <p>1) 町長は、平成20年3月10日の施政方針で、20年度は大きな節目となる年であると考え、住民参画で行政と一体となって創意工夫しながら住民主役のまちづくりを推進していくとされている。今年行われた各種行事については住民主役になっていないと思う。見直しが必要不可欠であると考え。</p> <p>①各種イベント・研究集会・大会について、見直しを検討する時期に来ていると思うがどうか。</p> <p>2) 7月1日付で、諸施策、諸課題を総合的に見直しが必要と考え、企画政策課を設置されたが姿が見えない。</p> <p>①事務分掌の1項目目に町政に関する重要施策等の企画及び総合調整に関することとあるが具体的な内容は何か。また進捗状況はどうか。</p> <p>②平成21年度は町政50周年であり、大きな節目の年である。この50周年事業に向かって、どのような計画がなされているのか。又、どの程度の予算規模で実施される予定か。</p> <p>盛りあがりを図るため、住民への周知はどう考えているのか。</p>
---	-------	---

3	小谷 博徳	<p>※町の活性化策について</p> <p>19年度予算が黒字決算となったものの、実質公債費比率で見ると全国下から4番目、まだまだ厳しい財政状況が続く事を念頭に置く中で、厳しい財政状況を隠れ蓑に活性化策の模索が、おろそかになってはいないか。何もしないことが美德ではなく、何に取り組めるかが行政の仕事と考える。これらを背景とした幅広い活性化策の中で、文化遺産を活かした町おこしを含め、質問の主旨としてただしたい。</p> <p>1. 企画政策課について</p> <p>①町おこしについて、取り組まれている政策課題について。</p> <p>②今年度末までに具現化するスケジュールはあるか。</p> <p>2. 文化遺産について</p> <p>①文化遺産の把握はどここの部所が行っているか。</p> <p>②埋もれた文化遺産の調査はしているか。</p> <p>③それらを利用した町おこしの企画は、もっているか。</p>
---	-------	--

<p>4</p>	<p>松本 利秋</p>	<p>※町民の健康づくりについて</p> <p>町民の健康を守るために検診による病気の早期発見、早期治療は、欠かすことのできない重要な施策の一つ。そのことは、景山町長のスローガンである「安心・安全」なまちづくりに向かうところであります。</p> <p>ところで、町内8ヶ所で実施されていた住民健康診査は、18年度より根雨、黒坂の2ヶ所に集約された結果、受診率が低下。その原因に検診場所が遠くなったことも一つの原因として考えられます。特に、山間部は高齢化が進んでおり、高齢者が受診しやすいよう、検診場所を再検討改善する必要があると考えます。</p> <p>また、生涯を健康で過ごすためには、日々の健康づくりが大切で「ぽかぽか教室」を町内19ヶ所で実施されていますが、普及率が低いので更なる推進を図る必要があると考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成17年度以降の住民健康診査の状況は 2. 高齢化が進み住民健康診査の受診者が減少している山間（現在の検診場所から遠方）地区の実態把握は 3. 高齢化などに対応して、住民の意見を尊重し、住民健康診査場所を再検討改善する考えは 4. 町民の健康づくりへの職員体制を整える考えは 5. 「ぽかぽか教室」の普及率の向上に向けた取り組みは 6. 健康づくり推進員制度を設ける考えは 7. 「ぽかぽか教室」の指導員派遣回数を増やす考えは
----------	--------------	---

5	佐々木求	<p>1. 保育行政について 08年3月に示された、保育所保育指針の内容が09年4月実施で行われようとしている。子育て支援の最も身近な施策として、各自治体の取り組みと基本姿勢の反映の一つとして重視されている。</p> <p>①国は高い保育料を設定しているが、町の場合、国の基準額から見たとき、全体としては減額を示している。このような中、なぜ、第一階層からの徴収を行う基準にしているのか。考えを改めるべきではないか。</p> <p>②生活保護の観点から見たとき、又、第2子以降のことを考える場合、町で生活していける状態にならないことは明らかであるが、どう考えているか。</p> <p>2. 精神障害者作業所について H23年度より、県は県内「小規模作業所」の補助金を打ち切り、自立支援法の範ちゅうでの運営に切り替えようとしている。11月には、「おしどり作業所」の家族会、指導員、利用者から、直接町長に実態と意見を聞いていただく中で、関係者の皆さんも存続への期待を持たれ、感謝もされておられたことは大きな成果です。</p> <p>身体と精神の障害の「格差」さえ問題になってきている今日、いわば「居場所」を維持することは高齢化する介護者にとっても重要です。</p> <p>①今後、家族会の育成をどう支援するのか。</p> <p>②県は実態に見合わない「小規模作業所工賃3倍化計画」を示す一方で、「日額100円の利用料」制度導入で利用者を追い込む結果になっているが、こうした内容をどうしていくのか具体的検討が迫られている。町としての検討を進めるべきでないか。又、町として国、県に言うべきことは示していかないと間に合わないと思うがどうか。</p>
---	------	--